

# 徐訏の話劇について

夏 嵐・森賀 一恵・磯部 祐子

富山大学人文学部紀要第56号抜刷

2012年2月

# 徐訐の話劇について

夏 嵐・森賀 一恵・磯部 祐子

## 1. はじめに

民国期に生きた作家の中には、当時かなり人気を博し、すぐれた作品をものしたにもかかわらず、魯迅や巴金、老舎とは異なり、長い間、大陸や日本の中国文学史に取り上げられることのなかった人がある。たとえば、張愛玲だ。しかし、張愛玲は、今日では、台湾、香港ばかりか大陸にも多くの読者がいる。また、文学史の中でも、「魯迅を越える面が多い」（夏志清『中国現代小説史』<sup>1)</sup>）と賛美されることもある。そしてもう一人、近年その全集が出版され、作品の評価が高まりつつある作家がいる。徐訐だ。司馬長風（1920～1980）は、徐訐を魯迅や郭沫若と比べて、「中国の文壇を見渡してみても、徐訐のようにあらゆる文芸に通じた八面六臂の優れた作家は、魯迅と郭沫若の二人ぐらいしかない。しかし、魯迅は中編と短編の小説を書いただけで長編があるとはいえ、詩も極めて少ない。郭沫若も長編小説はなく、古代史研究を含まなければ、詩、散文、小説、劇、批評文はどれも徐訐の作品とは比較にならない。あるいは量の面では優劣つけがたいかもしれないが、質の面でははるかに劣る。」と記す<sup>2)</sup>。

現在、『徐訐文集』16巻<sup>3)</sup>が出版され、詩歌、散文、小説に加えて、戯劇（いわゆる中国語の「話劇」、日本語でいう「新劇」）一卷が収められている。

小論は、日本でこれまでほとんど紹介されたことのなかった徐訐について、その略歴を紹介したのち、その劇作品について論じ、『徐訐全集』巻16所収の話劇劇本（戯曲）の中から「租押頂売」を訳出する。なお、「租押頂売」は、2011年富山大学人文学部中国言語文化演習の授業において作品解説を行い、日本語と中国語による上演をおこなった。

## 2. 徐訐について

徐訐とは、いかなる人物であるのか。数少ない徐訐研究者である蘇州大学の呉義勤の著書『漂

---

1 香港友聯出版社 1979年7月出版

2 陳乃欣等『徐訐二三事』（台北：爾雅出版社，1980年，第19頁）に見える。

3 上海三聯書店 2008年

泊的都市之魂—徐訏論<sup>4</sup>に付された「徐訏生平簡歴」に従い、まずはその略歴をみてみよう（以下は「徐訏生平簡歴」の訳文である）。

徐訏、本名伯訏、ペンネーム徐訏、晩年は好んで徐予を用いる。また、東方既白の名で政治論評や大陸の文壇を批評した文章を書いたこともある。浙江慈溪の人、1908年11月11日生まれである。1913年、5歳のとき小学校に入り寮生活を行う。1921年に北平に行き成達中学に学ぶも、1922年、父の従兄の影響で、上海のカトリック聖方濟中学に転校する。しかし、同年、西洋人の修道士の偽善に耐えられず、一学期を過ごして、再び北平の成達中学に戻り、卒業を迎える。1925年湖南第三連合高校で学び、1927年卒業。同年9月北京大学哲学系に入学し、1931年夏卒業し、学士の学位を得る。ついで心理学系にて2年間学ぶ。1933年夏、北京を離れ上海に行き、林語堂の半月刊『論語』の編集を手伝う。1934年4月5日、林語堂が半月刊『人間世』を創刊し、徐訏と陶亢徳の二人が編集を担当する。『人間世』は42期出版し、1935年12月に停刊する。1936年3月、徐訏と孫成は半月刊『天地人』を創刊するが10期で停止となる。

1936年、フランスに行き、パリ大学で哲学の研究をするが、翌年抗日戦争のため、学半ばにして帰国の途に行く。1938年1月24日、上海に到着すると、上海は既に孤島<sup>5</sup>となっていた。以後、文筆で生計を立て、『西風』『宇宙風乙刊』『中美日報』に多くの作品を発表した。同年5月1日、新創刊の月刊『読物』を馮賓符と共同で編集する。その後、上海にある中央銀行経済研究所に職を得て、生活は安定する。1939年、友人の丁君洵と半月刊『人間世』を共同で運営するが、4期のみにて停刊。1941年冬、独力で新たに創刊した雑誌『作風』の主編となるが、日本軍部が太平洋戦争に突入したことにより、租界地は接収され停刊となる。1942年、桂林を経て重慶に行き、中央銀行に勤める傍ら、重慶国立中央大学師範学院国文系の教授を兼任する。1944年、『掃蕩報』駐米特派員となる。米国時代、ニューヨークとウィスコンシンの田舎に住みメランコリーな詩を書く。同年長編小説『風蕭蕭』を出版する。1946年米国から上海に戻る。1950年、上海から香港に行き、継続して執筆活動を行う。前後して期刊『熱風』『幽默』『論語』『筆端』『七芸』などを創刊し編集するが、いずれも売り上げは芳しくなく、創刊後間もなく停刊となる。1952-1954の間、拓荒出版社の主任となる。また、香港珠海学院（1954-1960）、シンガポール南洋大学(1961-1962)、香港中文大学(1965-1968)で教鞭をとる。1965年、「香港各界紀念孫中山先生百年誕辰大会」の顧問となる。1970年、香港浸会書院中文系主任となり、1977年、香港浸会書院文学院院长を兼任する。1980年、退職する。7月パリに赴き「中国抗戦文学会議」に出席、

4 蘇州大学出版社、1993年

5 1937年の「八一三事変」から太平洋戦争の勃発まで、上海の英米などの公共租界とフランス租界は、日本軍と国民党のいずれの権力も及ばなかったことから、歴史学上では「孤島」と呼ばれている。

8月香港に戻り、10月5日零時5分肺がんのため香港律敦治療養院で逝去。享年73歳。

以上から、1938年から1954年頃まで、徐訏は主に雑誌編集に携わっていたことがわかる。しかし同時にその間、多くの作品をものしていたことは全集に収められた作品の数量から見てとれる。

以下に、戯曲に限って、主に前掲『漂泊的都市之魂—徐訏論』に従いその出版年と作品名を挙げる（出版年代が不明のものは末尾に附す）。

- 1930年独幕劇「青春」（『徐訏文集』収録）
- 1931年独幕劇「旗幟」（『徐訏文集』収録）
- 1931年独幕劇「野花」（『徐訏文集』収録）
- 1931年独幕劇「北平風光」（『徐訏文集』収録）
- 1931年二幕劇「男女」（『徐訏文集』収録）
- 1931年独幕劇「兩種声音」（『徐訏文集』収録）
- 1931年独幕劇「跳着的東西」
- 1931年独幕劇「公寓風光」
- 1931年独幕劇「遺産」（『徐訏文集』収録）
- 1931年独幕劇「水中的人們」（『徐訏文集』収録）
- 1931年独幕劇「糾紛」
- 1931年独幕劇「雪夜閑話」
- 1931年独幕劇「忐忑」（『徐訏文集』収録）
- 1931年五幕劇「荒場」（『徐訏文集』収録）
- 1932年独幕劇「心底的一星」（『徐訏文集』収録）
- 1932年独幕劇「難填的缺憾」（『徐訏文集』収録）
- 1933年三幕劇「女性史」（『徐訏文集』収録）
- 1935年三幕劇「人類史」（『徐訏文集』収録）
- 1935年独幕劇「鬼戲」
- 1939年四幕劇「生与死」（『徐訏文集』収録）
- 1939年独幕劇「契約」（『徐訏文集』収録）
- 1940年五幕劇「月亮」（『徐訏文集』収録）
- 1941年詩劇「潮来的時候」
- 1941年四幕劇「母親的肖像」（『徐訏文集』収録）
- 1941年独幕劇「租押頂壳」（『徐訏文集』収録）
- 1941年二幕劇「男婚女嫁」（『徐訏文集』収録）

1941年五幕劇「何洛甫之死」（『徐訏文集』では「兄弟」と改題され収録）

以下は出版年代不明の作品である。

- 独幕劇「客従他郷来」（『徐訏文集』収録）
- 独幕劇「日月曇開花的時候」（『徐訏文集』収録）
- 独幕劇「雞蛋與雞」（『徐訏文集』収録）
- 独幕劇「白手興学」（『徐訏文集』収録）
- 独幕劇「看戲」（『徐訏文集』収録）
- 独幕劇「紅樓今夢」（『徐訏文集』収録）
- 独幕劇「子諫盜跖」（『徐訏文集』収録）
- 四幕劇「軍事利器」（『徐訏文集』収録）
- 独幕劇「単調」（『徐訏文集』収録）
- 独幕劇「漏水」（『徐訏文集』収録）
- 独幕劇「乱麻」（『徐訏文集』収録）

また、『徐訏全集』（台湾正中書局出版）に収められた作品からみると、戯曲作品集は以下のよう

- 『生与死』、1940年、夜窓書屋
- 『月亮』、1940年、珠林書店
- 『契約』、1940年、成都東方書店
- 『孤島の狂笑』、1941年、夜窓書屋
- 『月光曲』、1941年、夜窓書屋
- 『野花』、1942年、成都東方書店
- 『鬼戲』、1942年、成都東方書店
- 『兄弟』、1942年、夜窓書屋
- 『母親的肖像』、1944年、成都東方書店
- 『灯屋集』、1947年、懷正文化社
- 『潮来的时候』、1948年、夜窓書屋
- 『黄浦江頭の夜月』、1948年、懷正文化社

### 3. 徐訏の戯曲作品

徐訏の作品は多岐にわたり、長編と短編の小説があるほか、散文、詩歌、戯曲などさまざまな文学形式を用い、まさにオールマイティーの文学者といえる。

そのうち、徐訏の小説の構想は、巧妙で、ストーリーは複雑かつ感動的である。抗戦という

壮大な背景の下、細部をくつきりと詳細に描きながら、空虚に流れることない。テーマは恋愛や金銭や人の弱さなど様々で、その作風はロマンチズムとモダニズムが混然一体となっている。散文は少なくないが、機知に富み、ユーモアにあふれるのみならず、日常生活のさまざまな出来事を通して、奥深い人生の意義や美的境地をわかりやすく描き、その哲学的学殖をうかがわせる。家庭観、女性観、労働観、ファッション観などは、先進的で極めて説得力がある。また、その詩は、林語堂に「唯一の中国の新詩人」と称されたことから、その実力のほどが知れる。

徐訐の作品の最大の意義は、同時代や前代や後代の多数の作家に比べて、広範で普遍的な人間性が描かれ、時代を超えた普遍的な価値をもつことであるといえる。今日、改めて彼の作品を読んでみても、感動を覚え、違和感は少しも感じない。これこそが、近年の徐訐ブームの原因の一つだろう。

劇について見れば、長いもので五幕劇があるが、短いものは僅か一ページの実験的なものもある。登場人物も多いものは十人や二十人のものもあれば、独り芝居もある。前掲『徐訐文集』第16巻は戯曲巻で、三十三本の戯曲が収められていて、現時点では大陸での徐訐の戯曲作品が最も多く収められたテキストである。以下、このテキストに依拠して、徐訐の戯曲の全体的な傾向と作風について簡単に分析し、その価値を論じる。

徐訐の最初に書いた戯曲は1930年の一幕劇『青春』で、当時、彼はまだ大学在学中だった。この戯曲はたった三、四ページの短いもので、登場人物は大学教授一人と一組の男女の大学生である。出会ったばかりの男子学生と女子学生が人生の目的をめぐる議論を展開し、「人生の目的は快樂だ」という共通認識に達した時、「理知的に」恋に落ちる話である。この戯曲には通常の意味での劇的対立がなく、あるのはただ見事なわかりやすい人生、恋愛に関する議論と、意外性に思わずニヤツとしてしまうような結末だけである。その後も、徐訐は引き続き内容のよく似た一幕劇をしばしば書き、悲喜こもごもの男女の恋愛と浪漫を描いていて、一幕劇で男女の恋愛を描くというこのパターンは、三十年代後期から四十年代の初めまで続く。

一般には、中国話劇史における創作の完成は、曹禺の『雷雨』(1933年)、『日出』(1935年)、『原野』(1936年)などの一連の多幕劇の出現がメルクマールだとされる。他の多くの作家たちと同じく、徐訐もはじめは一幕劇を書いていた。しかし、その作品は読むのには適していても上演には適していなかった。たとえば、前述の『青春』などは、芝居の所作には見るべきものはないが、生き生きとした面白いセリフは書齋でじっくり味わう価値はあった。しかし、1939年に発表された四幕劇『生与死』以降は、多幕劇の創作が増え、描かれる内容も広範で重厚なものに変わっていく。

徐訐は、戯曲に関しても、かなり理論的な文を書いており、その内容は観衆の心理から舞台の演出や監督の技巧まで、戯曲のあらゆる面にわたっている。博引旁証して古今を通じて論じ、

その論理的で幅広い見識を見せている。徐訐は当時のまだ未完成の話劇を批判し、「話劇運動が大衆の要求を顧みないことがその一切の失敗の根源である」<sup>6</sup>と指摘する。そしてその局面を打開し、旧劇（旧式の芝居）やハリウッド映画と争って観衆を獲得するために、彼ははっきりと次のように提議した。「まず第一に、物語は観衆の生活の中でありうべき事ではなければならない。第二に、登場人物は観衆の周囲にいそうな人物ではなければならない。第三に、所作は観衆の社会でよく見られるようなものでなくてはならない。第四に、セリフは観衆がよく使うような言葉でなくてはならない。第五に、観衆におなじみの道具を使わねばならない。」<sup>7</sup>徐訐の創作と評論の時間的スパンは長く、そのようなスパンの中で、中国の話劇の様々な時期の問題と意義を一概に論ずることは難しかったが、話劇が一般観衆から遊離しているという問題点を克服しなければいけないという指摘は、きわめて普遍性があり、その提議はどの作品にも共通する確性をもっていたといえる。

具体的な戯曲作品に即してみれば、徐訐の戯曲(特に多幕劇)のプロットはみな現実の生活と同様に、かなり複雑で奇抜である。幕が開いた時、すでに登場人物の「過去」はそれだけで芝居になるほど複雑で、ストーリーは様々な恩讐、誤解、情誼が交錯し、多くの伏線が張られて展開し、鮮烈な印象で、小市民の風情が浮き彫りになる。この傾向は、まぎれもなく、作品の読者層の好みと関わりが深い。徐訐はそのような読者の嗜好を意識して敢えて避けなかったのである。太平洋戦争が勃発して内地に逃れるまで、徐訐の生活と創作の拠点は主に上海にあり、上海市民は彼の創作の題材の源であり、また同時に最大の享受者でもあった。教育を受けた中産階級（または没落した中産階級）やそれ以上の階級の人物が徐訐戯曲の主な配役で、その他の階級はみな脇役であるか、まったく登場しないかである。登場人物が決まっているのだから、その複雑なプロットも実際のところパターンは決まっていて、それほど意外性はない。恋愛の成功や失敗、金銭の功罪、欲望の美醜、そしてそれらすべては当然「観衆の生活の中でありうべき事」で、徐訐は、誤解や偶然や思いがけぬ事件など戯曲の常套手段を用いてそれらを組み立てた。そういった組み立てられた物語の、細部細部にいくつかの挿話に関わり、重なり合っていて、面白いものになっているのである。と同時に、大筋がぼやけてわかりにくくなっており、深い意味のありそうな「過去」が十分に展開されずに、あわただしく触れられた後、読者や観衆に不完全燃焼の憾みを残すこともよくある。『生与死』、『母親的肖像』、『兄弟』など、いずれの作品にもそのような傾向を容易に見てとることができる。

セリフに関して、徐訐は「観衆がよく使うような言葉でなくてはならない」と主張した。すでに述べたように、彼の観衆は彼が熟知している人々で、かつまたその作品の主要人物として

6 「所謂国劇」（前掲『徐訐文集』第9巻所収）

7 「争取話劇的観衆」（同じく前掲『徐訐文集』第9巻所収）

中産階級以上の階級の人物であった。ところが、その主張を推し進めた結果、彼が本来好まぬ現象が出現した。登場人物の言葉がその身分に合わないのである。配役の必要から登場した、中産階級ではない人物も中産階級の言葉を話し、中産階級の動作をすることになるということである。『月亮』の田舎から出てきた女中の月亮のことは女子大学生のようであり、『兩種声音』の小学校しか出ていない若者のセリフは優雅で洗練されている。こういった類のことはみな、どうしても唐突の感が否めない。そのみならず、その散文の筆致が極めて凝っているように、戯曲でも、哲学を学んだ徐訐は象徴的な手法を用いることが得意で、それに加え現実や世相に対する観察も鋭く的確であるため、言葉は精彩を放ち、哲理に富んだものになった。そういった本来きらりと光る警句は、一旦セリフになると、たとえ登場人物の身分にふさわしいものであっても、どうしても劇のプロットと遊離したものになりがちなのである。

つまり、劇は、中流階級の言葉によってプロットと遊離した世相を鋭く批判する哲理が展開し、また、プロットが複雑すぎて一つの芝居の中でその全てを十分に展開することは難しいという傾向があった。

それでは、徐訐はなぜ戯曲というスタイルを選んだのか。戯曲でなければいけなかったのか。実際、最初の問題を解決するには、散文というスタイルの方が適しているし、後の問題を解決するには、もしかしたら小説が最もふさわしいかもしれない。『徐訐文集』戯劇巻を通読すると、戯曲でなければならなかった理由が見当たらないように思われる。ありうる可能性は、才気あふれる徐訐がスタイルを換えて書いてみたかったという理由だが、このスタイルは、小説や散文ほど自家菜籠中の物になっていたとはいえないし、またそれほどの確に理論的主張が実践できたともいえない。

それだからこそ、小論で訳出した『租押頂売』はより得難いものに思える。この芝居が書かれたのは、話劇の歴史からみると、すでに創作劇の多幕ものが完成し大量に生産された時代で、一幕劇（翻訳劇も含む）がかなり普遍的だった二十年代と比べると、話劇を取り巻く環境は全く異なっていた。当時、一幕劇もはや少数派に属していた。しかし、『租押頂売』は短いものではあったが、徐訐の戯曲の代表作といえる。『中国新文学大系・第三輯(1937-1949)』（上海文芸出版社 1991年）に収録された作品のほとんどが「左傾」の主流作家のものである中で、中華人民共和国成立後の現代文学史では数十年の間「お蔵入り」になっていた徐訐の『租押頂売』がなんと一席を占めている。これは、『中国新文学大系・第三輯(1937-1949)』の編者が、慧眼の士であることを示すと同時に、この作品が看過できない価値をもっていることを示している。

『租押頂売』には、先に述べたような問題が全くないだけでなく、徐訐の作風の特徴と長所が遺憾なく発揮されている。徐訐が熟知している中産階級の人々がその身分に合った言葉を話し、身分に合った夢を見、生き馬の目を抜くような上海で名利を求めてあくせくする。登場人物はそれぞれ個性を持ち、それぞれ思惑があり、その様々な努力や失敗には軽い笑いを誘われ



るが、憤りは感じられない。小賢しさが却ってあだとなった張夫人、男前で軽薄な遊び人の林湖平、玉の輿を心から願う路影、それほどの意志を持たぬ莫愁水夫妻など、彼らの姿に、我々が見るのは実は誰にでもあるいくつかの弱点と欲望で、それは特別にまた極端に醜いものではない。これこそ徐訐の卓越している点で、描くのは彼にはおなじみの人々だが、それに普遍的な人間性を映し出しているのである。思慮に満ちた思弁的な言葉は、舞台の上では、軽妙で機知に富み、適切かつ適度である。それゆえ、数十年の時を隔てて今日改めて『租押頂売』を読み演じてみても、なお感得するところがあり、違和感がないのである。

徐訐は太平洋戦争勃発後、「いくつかの劇団が私の戯曲の上演を打診してきたが、断った」<sup>8</sup>と語っている。上演を打診されたのがどの芝居だったのか、『租押頂売』が含まれていたのか否かはわからない。孤島時期と淪陥後の上海では、話劇の興行は多くは大劇場、多幕劇のプロの上演で、短い一幕の『租押頂売』の当時の上演資料は現時点ではまだ見つかっていない。しかし、そのことは『租押頂売』が舞台での上演に非常に適した作品であると見なすことに何ら影響は与えない。彼の他の多くの作品が読むのにはいいが演じるにはふさわしくないのと違って、『租押頂売』では、短い時間の中に完璧な物語をすきまなく埋め込み、登場人物の個性も際立たせ、セリフも適切で自然に仕上げ、劇的対立の発生、発展、解決の過程も明快かつスムーズで、一気呵成に描き切っている。歴史を振り返れば、二十年代は新興の話劇の舞台での上演の実践のために大量の作品が必要とされた時代で、創作話劇がまだ十分発展していなかったため、舞台では多くの翻訳劇を借りて演じたり、数少ないいくつかの創作劇（多くは一幕物）を何度も演じるしかなかった。仮にもし、この作品が、その優れた創作劇の需要があったにもかかわらず供給が稀であった二十年代や三十年代初期に作られていたなら、きっとすばらしい上演実績を残したことであったろう。

#### 4. 独幕劇「租押頂売」について

では、「租押頂売」の内容を具体的に見てみよう。舞台は民国29年冬の上海である。「租押頂売」の「頂」とは、借りている部屋の使用权を第三者に譲渡するということで、「頂」一字でも「租押頂売」の意味を代表することができる。

博打で金を失った張夫人は、借金を返すため部屋の貸借権を譲渡しようと、娘（張路影）に命じて広告を書かせる。書きながら路影はコートがほしいのに買えないのは母親が麻雀で負けたせいだと母に言う。母はコートは婿に買ってもらうものだからと、娘のために婿選びをするという。しかし、路影は自分で選ぶと言い、そのためにも見栄えのするコートがほしいと言

---

8 「從上海歸來」（同じく前掲『徐訐文集』第9巻所収）

張る。そこへ、莫愁水というハンサムな男が部屋を見にやってくる。結婚相手にぴったりだと心躍る路影だったが、実は妻子持ち、その上、博打好きと来ている。階上に賭博場があると聞くと、張夫人と二人で博打場に急ぐ。ついで、毛皮のコートを身にまとった莫夫人も部屋を見にやってくる。そのコートを目にした路影は心奪われ、部屋貸しのことはどこへやら、女性のおめかしについて話は盛り上がる。そうこうしているうちに莫愁水は麻雀に負けて帰ってきた。収まりのつかない莫愁水に、張夫人は莫夫人の毛皮を質草として1000元を貸すと、莫愁水は質草を取り戻したい妻とまた賭博場に行く。路影はコートを手織り大喜びだ。そこへ、林湖平なる金のありそうな若者が部屋を見に来る。林湖平は結婚しなければ家を出てはならないと父親にいわれたと言う。玉の輿結婚の願望がありながら親が決めた婚姻を望まぬ路影と部屋を借りて家を出るためには結婚が前提となる林湖平。二人の目的は合致した。一方、小賢しい張夫人は、家の貸借権も譲渡し、娘も嫁がせ、自分もここで生活できると知ってひそかに喜ぶ。その時、莫愁水夫婦はすった金を取り戻し意気揚々とやってきてコートを取り戻す。取り戻した1000元は自分のものだと主張して譲らない路影親子を林湖平は仲裁し、夫人が再び賭博に行かないようにとその金は自分が預かると言う。そんな林湖平に心を許した路影に、林湖平は、こんどは母子に支払う金まで自分が預かると言う。

パートナーを射止めた路影、濡れ手に粟の林湖平。目論見がすっかり狂った張夫人。張夫人の娘を罵る声で幕は下りる。

この作品には、「本当のところ、私が結婚したくないわけは、どうしても私と結婚したいがために嫁に来るような女は大抵自分の考えがないからです。そういう女たちは私の家が金持ちだから結婚するんです。」と自分の考えを持たない女性を否定しているようにも見える一句があるが、とりたてて、それを主張しているようには思えない。「濡れ手に粟の林湖平」とはいつでも、張路影との結婚及び部屋を借りることができたのは、林湖平の悪巧みによってもたらされたわけではない。張路影もそれを望んだのであり、あれよあれよという間に、二人は結婚し同居する運びとなったのだ。だから、張夫人の「ああ、この薄情な人でなしめ、自分のお腹を痛めて生んで、抱いたりおぶったりして、あそこまで育てたのに、男ができれば母親を棄てるなんて、ああ、この人でなし、……」という声にも、観客は「あらそうなったの。まあ仕方ないわね」という笑いを返す以外はない。「租押頂売」は、時代に埋没することなく、話劇を話劇として楽しんだ徐評の姿勢をも思わせる作品といえるだろう。乾いた機知は、オスカー・ワイルド的世界に通じるものがあるように思われる。

## 5. 独幕劇「租押頂売」翻訳

## 租押頂賣

徐訏

時：一九四〇年冬。

地：中国上海。

人：張太太

張路影小姐

莫愁水先生

莫愁水太太

林湖平先生

王媽

景：三上三下房子的一间客厅，后面绒帘启处，隐约可以看见饭厅，内有门通楼梯。布置精美，沙发甚多，无线电在左，电话在右，旁有门通外。

〔幕开时，張路影小姐在桌上写召頂条子，她已经写好几张，散在桌上。張太太自外进。〕

張太太：路影，路影，你写好了没有？

張路影：我写好五张。

張太太：才写好五张？好，那么你先念给我听听。

張路影：（念）兹有三上三下三层大洋房一所，一切摩登设备俱全，柚木家具两堂，沙发十八只，零星家具二十一件，粉刷全新，地址安全，交通便利，光线充足。出大门左首八步有老虎灶，右首十步有大饼摊，对马路有理发铺、有菜馆、有报摊、有小百货

## 借家譲ります

徐訏

時：中華民國二十九年冬

所：中国上海

登場人物：張夫人

張路影嬢

莫愁水

莫愁水夫人

林湖平

王婆や

情景：三階建の家の客間。正面のカーテンの隙間から食堂が見え、中のドアは階段に通じている。部屋の設えは手が込んでいて、たくさんのソファがあり、左にラジオ、右に電話があり、脇に外に通じるドアがある。

〔幕が開くと、張路影嬢がテーブルに座って「借家譲ります」の札を書いており、既に書き終わった数枚がテーブルの上に散らばっている。張夫人が外から入ってくる。〕

張夫人：路影、書けた？

張路影：五枚書けたわ。

張夫人：五枚しか書いてないの。じゃあ、先に読んで聞かせてちょうだい。

張路影：（読む）三階建の（石庫門）洋館一軒、最新設備完備、チーク材の家具二セット、ソファ十八、細々とした家具二十一、壁全面塗り替え済み、地区の治安は万全、交通至便、日当り良好。玄関から左に八歩で湯沸かし屋、右に十歩で焼餅店、向いに理髪店、レストラン、新聞売り場、小型百貨店、クリーニング店、飴屋あり、警察署は裏、

公司、有洗衣铺、有糖果铺；巡捕房就在后面、救火会也不很远，附近还有大医院，中西药铺两面站。殡仪馆隔两条街，棺材铺转三个弯；前后邻居都高尚，中学小学在两旁，还有小菜场只隔九条弄堂。两路公共汽车到大马路，十三路无轨电车到外滩，要往来往便当不便当，附近都是汽车行。现因主人急欲离沪，廉价出顶，顶费两万二，请打电话三三三三三三接洽，是所至禱。

张太太：写得倒是很清楚，不过你为什么不把我们的洗澡间写上一点？还有我们的电话号子，就凭这个这样容易记的号子，也值三千五千的挖费。

张路影：妈，假如这房子顶出去了，可要让我买一件皮大衣。

张太太：皮大衣，对了，你应当有一件皮大衣。但是现在也不必买了，我正在替你挑丈夫，挑中了，先叫他送一件来。

张路影：妈，你说什么？

张太太：我说我正在为你挑丈夫。

张路影：这个可是我自己的事情，我不要。

张太太：自然是你自己的事情。但是你自己没有经验，从哪里去挑呢？

张路影：我不要。

张太太：不要？这是笑话了。妈也是大姑娘出身，有什么不晓得，哪有十九岁的大姑娘，还会不要丈夫呢？这里没有别人，你尽管对妈说，你要什么

消防会からも遠からず、近くには大病院、その両側には西洋薬局、漢方薬局がひかえ、葬儀場は二筋先、棺桶屋は角を三つ曲がったところ、隣近所は皆なハイクラス、中学校・小学校が両隣、市場も路地を九筋隔てたところ。二番のバスは大馬路（今の南京路）行き、十三番のトロリーバスは外灘行きで、交通は便利かといえば、近くには自動車も通るほど。居住者が急遽、上海を離れることになり安値で借家譲ります。二万二千元。333333番にお電話でご相談ください。

張夫人：はっきり書いてはいるわね。でもなぜ浴室のことも書いておかないの。それにこの電話番号も、こんなに覚え易い番号なんだから、それだけでも三千や五千のプレミアが附くわ。

張路影：お母さん、もしこの家に借り手がついたら、毛皮のコートを買わせてよ。

張夫人：毛皮のコート、そうね、お前も一着持っていないきゃね。でも今買わなくていいわ。ちょうどお前の婿を選んでいるところだから、決まったら、まずその人に一着贈らせましょう。

張路影：お母さん、何ですって？

張夫人：ちょうどお前の婿を選んでいるところだって言ったのよ。

張路影：それは私自身のことだから、やめてもらいたいわ。

張夫人：当然お前自身のことよ。だけど、お前自身には経験がないのに、どうやって選ぶの。

張路影：私は嫌よ。

張夫人：嫌？おかしなこと。お母さんだって娘時代はあったから、わかるわよ。十九の娘が夫が要らないなんてことあるもんですか。ここには他には誰もいないんだから、遠慮なく言いなさい、どん

样的人，妈同你去挑。

张路影：我现在还早，我要的时候，我自己会挑。

张太太：还早？怎么还早？难道等老了才嫁人么？老实告诉你，女人不是红木家具，是沙发，弹簧一坏就没有人要了！嫁人要在年轻的时候，卖花要在将开的时候。要是花铺里的老板，把好花都藏起来，等它谢了的时候才肯卖掉，那这个铺子一定早就关门了。

张路影：我说还早，是我还没有挑着。

张太太：所以你告诉我，要什么样的人，我替你去挑。

张路影：我的意思刚刚相反，我想最好妈告诉我什么样的人做丈夫好，由我自己去挑。

张太太：做丈夫的男子，啊，第一自然要有钱。你要皮大衣，他有钱，立刻就可以买，你要金刚钻，他有钱，立刻就可以买……你老早说自己挑，自己挑，但是一直也没有挑到，过年是二十岁了！二十岁的女孩子，出门没有个男子挂在胳膊上，多寒伧！

张路影：是呀，所以我先要一件皮大衣。

张太太：皮大衣，这同皮大衣有什么关系？

张路影：你想，什么事情可以不放本钱？你要我找有钱的丈夫，自然我先要有

な人がいいの、選んであげるわ。

張路影：今はまだ早いわ。その気になったら、自分で選べるわ。

張夫人：まだ早いですって？早いもんですか？年取ってからお嫁にいくとも言うの？本当のところ、女はマホガニーの家具でなくて、ソファよ、スプリングがだめになったら、誰も欲しがらないのよ。お嫁に行くなら若い時、花を売るなら蕾の時。花屋さんが綺麗な花をしまい込んで、萎れてからしか売ろうとしなければ、そんな店はきつとすぐ潰れちゃうわ。

張路影：まだ早いというのは、まだ見つけてないってことよ。

張夫人：だから言ってるじゃない。どんな人がいいか言ったら、代わりに探してあげるって。

張路影：私の考えはまるっきり逆よ。お母さんが、私にどんな人を夫にしたらよいか言って、私に自分で選ばせてくれたらいいと思うわ。

張夫人：夫になる男は、第一に金持ちでなきゃだめ。毛皮のコートが欲しいとき、夫が金持ちなら、すぐにも買ってもらえるし、ダイヤの指輪が欲しいとき、夫が金持ちなら、すぐにも買ってもらえる。……お前はずっと前から自分で選ぶ、自分で選ぶと言っているけど、全然見つからないじゃないの。お正月が過ぎたら、二十歳よ。二十歳の娘が外出するとき腕を組む相手もないなんて、みっともない。

張路影：そうよ、だから先に毛皮のコートが欲しいのよ。

張夫人：毛皮のコートですって、このことが毛皮のコートに何の関係があるのよ。

張路影：あのね、元手のいらぬものなんてある？私に金持ちの夫を見つけて欲しいんだったら、当

派头。到外面交际起来，有皮大衣同没有皮大衣，身价就差很多了。哪一个有钱的男人肯同一个衣服不好的女人一同去玩儿呢？

张太太：那么说，你找不到好男人，倒是我娘不好。好，我买给你。省得将来你嫁坏了人，说是我害了你。那么你要做什么皮呢？

张路影：灰背，自然还是灰背，或者玄狐也好。

张太太：现在这个可是买不起！你也不打听打听现在价钱涨了多少？

张路影：也不过五六千块钱，要是妈不赌输，两三件都做到了。

张太太：是呀，要是不赌输，我房子还不出顶呢！说来说去还是你不好。

张路影：我不好？又不是我叫你去赌的。

张太太：虽然不是你叫我去赌的，但是这房客总是你接头的。

张路影：虽然是我接头的，但是我问过你哟。

张太太：你问我的时候，我不是说租给开赌场的总不好吗？但是你偏说没有关系。

张路影：我说没有关系，你说不出什么别的毛病。况且后来的决定还是你呀。你叫他们出三倍房租，他们答应了，你高兴得不得了，就租给了他们。

然まず格好をつけさせなくては。一緒に出かけるようになったら、毛皮のコートがあるのとないのとでは、ステータスは段違いよ。金持ちの男が身なりのよくない女となんて一緒に遊びに出かけるもんですか。

張夫人：というと、いい男が見つからないのは、母さんが悪いという事ね。いいわ。買ってあげましょう。将来お前がいいところに嫁に行けなくて私の所為だって言わないように。で、何の毛皮で作りたいの？

張路影：チンチラ、もちろんやっぱりチンチラね、ブラックフォックスでもいいわ。

張夫人：今それは買えないわよ。今どんなに高くなったか聞いてみたらどうなの？

張路影：たったの五、六千元じゃないの。お母さんが賭けに負けなかったら、二、三着でも作れたわ。

張夫人：そうよ、もし賭けに負けていなかったら、家だって貸し出したりしないわ。結局やっぱりお前が悪いのよ。

張路影：私が悪いですって？私が賭けに行かせたわけでもあるまいし。

張夫人：お前が賭けをさせたわけではないけれど、あの借り手には結局お前がかけあったんだから。

張路影：わたしがかけあったけれど、おかあさんに聞いたわよ。

張夫人：お前に聞かれたとき、賭場を開いているような人に貸すのはやっぱりよくないだろうって言ったじゃないの。なのに、お前ったら頑として関係ないって言うんだから。

張路影：わたしが関係ないって言うと、お母さんも他の欠点を何も挙げられなかったわ。それにその後で決めたのはやっぱりお母さんじゃないの。お母さんが家賃を三倍出せって言って、あの人たち

张太太：但是合同是你签的。

张路影：合同虽然是我签，但是是你自己叫我签的。而且合同里都是租房子的话，并没有叫你一定要去赌。

张太太：可是哪有三层楼是赌场，住在二层楼的人可以不去赌的事情。而且第一次赌还是为你的皮大衣。

张路影：为我的皮大衣？

张太太：是呀，你说你要做皮大衣，我想来想去还是去赌试试，也许赌赢了可以买一件皮大衣给你。

张路影：你自己要赌钱，何必推给我呢？

张太太：自然我不好，但是我当初的确这样想，谁知道一赌就赌上了。

张路影：就算你是为我皮大衣，那么起初赢了一千多块钱，为什么还去赌呢？

张太太：那时候，你不是每天拉我到静安寺路去看那面橱窗里的一件玄狐大衣么？那件大衣要三千多元。所以我想赢满了这个数目。哪里晓得以后就一直是输呢，把你父亲遗下来一点钱都输光了。

张路影：但是我还是没有皮大衣呀！

が承諾したら、お母さんすごく喜んで、すぐ貸したのよ。

張夫人：でも契約書はお前がサインしたわ。

張路影：契約書は私がサインしたけど、お母さん自身が私にサインさせたのよ。それに、契約書の内容はみんな部屋の賃貸の話だけで、お母さんが賭けに行かなければならないなんて書いてなかったわ。

張夫人：だけど、三階が賭場なのに、二階の住人が賭けに行かないなんてことがあるもんですか。それに、最初に賭けをしたのはお前の毛皮のコートのためよ。

張路影：私の毛皮のコートのためですって？

張夫人：そうよ、お前が毛皮のコートを作りたいっていうから、いろいろ考えて賭けをしてみたのよ。もしかして勝ったら毛皮のコートを一着買ってやれるかもと思って。

張路影：自分が賭けをしたかったのに、私の所為にすることないでしょう。

張夫人：もちろん私が悪いけど、最初は確かにそう思ったのよ。それが、一回やったらやみつきになってしまって。

張路影：私のコートのためだったとしても、それなら、最初一千元以上勝ったのに、なぜまだ賭けを続けたの。

張夫人：あの頃、お前は毎日私を静安寺路に引っ張ってそのショーウィンドーのブラックフォックスのコートを見に行っただじゃないの。あのコートが三千元以上したから、その額まで勝とうと思ったのよ。それから後はずっと負け続けるなんて思いもしなかったもの。お前のお父さんが残してくれたお金まですっかりすってしまったわ。

張路影：それなのに、私はまだ毛皮のコートを持っ

张太太：幸亏我们屋子值钱，顶费就有两万多，比你父亲一辈子赚的钱还多。啊，你写的顶费是两万几？

张路影：两万二。

张太太：太少，太少——你快改两万四。幸亏没有贴出去，否则就难加了。

张路影：但是你已经加了两千了，昨天你登的报上广告不还是两万么？

张太太：是呀。昨天晚上我听说米价涨了，金子也涨了。那么什么东西都贵了，所以我加上两千。可是刚才我出去买白糖，白糖又涨了，我一打听金价，听说也涨了许多，所以我赶快到大马路去看家具，家具比以前涨了好几倍，我们这样的沙发，现在要三百块一把了。那么我们为什么不再涨一点，涨两千终不算多吧。

张路影：那么索性凑足二万五。那加上三千块钱，就让我买一件皮大衣。

张太太：就这样，就这样，你快写好了，叫王妈去贴去。要写十张，你知道么？

张路影：今天一定可以写好，晚上就可以贴出去了。

（王妈上）

王妈：太太，外面有人来看房子。

张太太：看房子？怎么，我招顶条子还没有写好，就有人来看房子。

てないわ。

張夫人：幸いなことに、私たちの家<sup>うち</sup>に値打ちがあつて、貸借権が二万元以上もして、お前のお父さんが一生かけて稼いだ額より多かつた。ああ、お前が書いた讓渡料は二万幾らだつて？

張路影：二万二千よ。

張夫人：安すぎるわ、二万四千にしなさい。幸い、まだ張り出してないわ。でなきゃ、値上げは難しかったわね。

張路影：だけどもう二千元値上げしたでしょう。昨日載せた新聞広告は二万だつたじゃない。

張夫人：そうよ。昨日の夜、お米の値段が上がつて、金の値段も上がったって聞いたの。何でも高くなつたと聞いて、二千元上げたのよ。でも、今しがた白砂糖を買いに行つたら、また白砂糖が高くなつていて、金の値段を訊いてみたら、やっぱりかなり上がったというから、急いで大馬路に行つて家具を見たら、家具は何倍にも上がつていて、家<sup>うち</sup>みたいなソファは今や三百元になつてゐるわ。だつたら、もう少し上げない手はないわ。二千元の値上げは高いとは言えないわよ。

張路影：それなら、いっそのこと、きっちり二万五千にしましょう。値上げした三千円で私にコートを買わせてちょうだい。

張夫人：じゃあそうしましょう、さつさと書いちゃつて、王婆やに貼りに行かせてちょうだい。十枚書かなきゃ。わかつた？

張路影：今日中には書き終わつて、夜には貼りだせるわ。

〔王婆や登場〕

王婆や：奥様、表<sup>おもて</sup>に部屋を見に人が来ております。

張夫人：部屋を見に？何ですつて、「借家譲ります」の札をまだ書いてもいないのに、部屋を見に人が



张路影：妈，你怎么忘了昨天你登过报，这一定是看了报纸来的。

张太太：那么快叫他进来！（王妈欲出，但她又叫住她）啊，你看这个人有钱没有钱？

王 妈：我想没有什么钱，连汽车夫都没有。

张太太：坐汽车来的吗？

王 妈：是呀，但是自己开车子。

张太太：好，好，快叫他进来。

张路影：是男人，女人？

王 妈：一个男人。

张路影：只一个人？漂亮么？

王 妈：男人自然是漂亮的啦。

〔路影对镜子弄弄头发，弄弄衣服。〕

张太太：快去叫他进来吧。

〔王妈下。〕

张路影：妈，你快把我后面头发弄弄好。

唉，可惜没有皮大衣！可惜没有皮大衣！

〔一个漂亮的男子进来，那就是莫愁水先生。〕

莫愁水：你们这房子出顶么？

张太太：是的，先生。

张路影：先生，请坐。

张太太：先生，你是看报纸的广告来的吗？

莫愁水：是的，太太。

张路影：先生，贵姓？

莫愁水：我姓莫。

张太太：啊，莫先生。报纸广告上顶费是两万块，但是现在我们要顶两

来てるですって？

張路影：お母さん、昨日新聞広告を出したじゃないの？きっと新聞を見てきたのよ。

張夫人：じゃあ、さっさとお通しして。（王婆やを出て行こうとするが、また呼びとめて）ああ、その人はお金が有りそうだったかい？

王婆や：有るようには思えません。車夫さえいましてした。

張夫人：車で来たのかい？

王婆や：車ですが、自分で運転していました。

張夫人：わかったわ。さっさとお通しして。

張路影：男？女？

王婆や：男の方お一人です。

張路影：一人だけ？ハンサム？

王婆や：男の方はもちろんハンサムです。

〔路影は鏡に向かって髪を整え、服を整える。〕

張夫人：さっさとお通しして。

〔王婆や下がる〕

張路影：お母さん、私の後ろの髪をはやく整えて。

ああ、残念ながら毛皮のコートがないわ。残念だわ。

〔ハンサムな男が入ってくる。莫愁水氏である。〕

莫愁水：あなた方はお宅をお譲りになるのですか？

張夫人：そうですわ。

張路影：どうぞ、お座りください。

張夫人：新聞広告を御覧になって来られたのですか？

莫愁水：そうです、奥さん。

張路影：お名前は？

莫愁水：莫と申します。

張夫人：あの、莫さん。新聞広告の譲渡料は二万円でしたが、今は二万五千でお譲りしたいのです。

万五。

莫愁水：怎么，两万五？

张太太：因为，你看，什么东西都涨价了，家具，我去看过，还有还有……

莫愁水：涨价也没有这么快呀，（他从袋里拿出报纸）这是昨天的广告，到今天不过一天，也没有涨那么些呀？

张路影：不，莫先生，广告是叫别人去登的，所以有点错。

莫愁水：那么顶费是两万五？

张太太：是的。不瞒你说，我们的家具都是柚木的。你看，都是这样新。还有，我们的电话号子是三三三三三三，就凭这个电话也要顶三千五千。

莫愁水：这不是什么好号子，要是五五五五五五，那才是好号子。

张路影：这是怎么回事？

莫愁水：因为我的命运是逢五必吉。五岁那年，我父亲做了两个银行的经理，十四岁那年他投机失败，十五岁那年，他又发了大财；二十四岁那年我失恋，二十五岁那年，凡是女人都喜欢我，那么有些什么东西出顶呢。

张路影：这里有账，你听，（她从桌上拿一张大纸念）柚木家具两堂，沙发十八只，大菜台一张，高背椅八只，小铁床三张，碗柜一只……

张太太：这些你回头都可以看，此外，我们房子间间都有纱窗，厨房里有磁灶，还有丝绒帐帷，西洋窗帘……一

莫愁水：何ですって、二万五千？

張夫人：なぜって、ほら、何でも値上がりしましたでしょう。家具も私、見に行きましたの。それに……

莫愁水：値上がりするったってそんなに速くありませんよ。（袋から新聞を取り出し）これは昨日の広告で、昨日の今日だから、そんなには上がらないでしょう。

張路影：いいえ、莫さん、広告は他人に頼んで出してもらったので、少し間違いがあったんです。

莫愁水：それじゃあ譲渡料は二万五千ですか？

張夫人：そうです。本当のこと申しますと、家の家具はみんなチーク材ですの。ほら、みなこんなに新しいんです。それに、家の電話番号は333333で、この番号だけでも四、五千元になりますわ。

莫愁水：それはそんなにいい番号じゃない。555555なら、いい番号ですがね。

張路影：どういうことですか？

莫愁水：私の運は五にぶつかると必ず吉と出るからですよ。父は私が五歳の年に、二つの銀行の頭取になり、十四の年に投機に失敗し、十五の年にまた大儲けしました。私は二十四の年に失恋し、二十五の年にどんな女にも好かれました。それじゃあ、どういったものが附いているんですか？

張路影：ここに明細があります。お聞き下さい。

（テーブルの上から紙を一枚取り上げて読む）チーク材の家具二セット、ソファ十八、ダイニングテーブル一、背もたれ付き椅子八、鉄のベッド三、食器棚一、……

張夫人：こういったものは後でみな御覧になれます。そのほかに家の部屋にはみな網戸がついていて、台所にはタイル貼り竈があって、ピロードの垂れ

切都给你。

莫愁水：(拿路影小姐手上的帐账单来看)不错，不错，东西不少，我要顶就照这个点就是了。(四面看看)啊，房子不坏，开间也不算小，只是太低一点。

张路影：不低，房子不算低，因为你先生长得高，所以看起来就低了。

张太太：房子低一点，冬天比较暖和。

莫愁水：那么交通呢？

张路影：交通可方便，(她拿桌上招租红纸条念)“两路公共汽车直到大马路，十三路无轨电车直到外滩，要问来往便当不便当，附近都是汽车行……”

莫愁水：好极啦！好极啦！那么药铺近不近？

张路影：(又念)“……附近还有大医院，中西药铺两面站。殡仪馆隔两条街，棺材铺转三个弯……”

张太太：别念，别念……

莫愁水：好极啦，好极啦。不瞒您说，我太太顶会生病，一年到头吃药，所以药铺一定要近一点……

张路影：怎么你有太太？

莫愁水：是的，她就在附近买东西，回头就来。

张路影：啊，原来你有太太？

莫愁水：是个生病鬼，所以药铺医院最要紧。啊，还有，还有那娱乐的地方

幕、洋風カーテンもありますが、……みんな差し上げます。

莫愁水：(路影嬢から明細を受け取って見て)いいですね。品物がかなりありますね。譲り受けたら、これで点検すればいいですね。(周囲を見回して)ああ、部屋もなかなかいいですね。広さも狭くはないし、ただ、ちょっと天井が低いですね。

張路影：低くありません。低いとはいえませんわ。あなたが背が高すぎるから、低いように見えるんです。

張夫人：天井が低い方が冬は暖かいですよ。

莫愁水：じゃあ交通の便は？

張路影：交通はとても便利で、(テーブルの「借家譲ります」の札を取り上げ読む)「二番のバスは大馬路行き、十三番のトロリーバスは外滩行き、交通は便利かといえば、近くには自動車も通るほど。……」

莫愁水：すばらしい。それでは薬屋は近いですか。

張路影：(さらに読む)「……近くには大病院、その両側には西洋薬局、漢方薬局がひかえ、葬儀場は二筋先、棺桶屋は角を三つ曲がったところ、……」

張夫人：読むのやめなさい。……

莫愁水：すばらしい。実は、妻が病気がちで、一年中薬を飲んでいるので、薬屋は絶対に近くにないと、……

張路影：えっ、奥様がいらっしゃるの？

莫愁水：はい、妻は近所で買い物をしていて、そのうち来ます。

張路影：まあ、奥様がいらしたの。

莫愁水：病気がちな奴だから、薬屋と病院が欠かせないんです。あ、それから、娯楽施設には遠いで

远不远呢？

张太太：有两路公共汽车，十三路无轨  
电车，还有去哪里不方便呢？

莫愁水：可是我的娱乐有点不同。

张太太：是什么？

莫愁水：我要赌钱。

张太太：你问赌场，是不是？

莫愁水：对呀，附近有没有？

张太太：(笑)近极了，这里三层楼就是，  
你顶到这房子，还可以租给他们，他  
们房租很大，你可以自住……

莫愁水：怎么？你说三层楼有赌场？

张太太：是的。

莫愁水：那好极了，我先要去试试。你  
陪我去，怎么样？

张太太：自然自然。

莫愁水：啊，张小姐，回头我太太来，  
请您招呼她一下，费您心。

张太太：您放心，您放心。

(张太太陪莫愁水先生从饭厅下。

张路影：他有太太，他已经有太太了！

(路影坐下写招租条。王妈上。

王 妈：有一位太太来找她的丈夫，说  
她的丈夫在这里看房子。

张路影：请她进来。

(王妈下。路影又对着镜子里理理头  
发，拉拉衣服，王妈与莫愁水太太上。

しょうか。

張夫人：二番のバス、十三番のトロリーバスがあり  
ますから、どこに行くにも便利にきまっていますわ。

莫愁水：ですが、私の娯楽はちょっと違うんですよ。

張夫人：何ですか？

莫愁水：賭け事です。

張夫人：賭場の事ね。違います？

莫愁水：そうです。近くにありますか。

張夫人：(笑って)近いも近い、ここの三階がそう  
です。この家を借りることになられたら、またそ  
の人たちに賃貸できますわ。払ってくれる賃貸料  
が高いから、ただでお住みになれますわ。……

莫愁水：何ですって？三階が賭場だとおっしゃるん  
ですか？

張夫人：そうです。

莫愁水：それはすばらしい。まず試してみよう。一  
緒に行ってくださいますか？

張夫人：もちろんですとも。

莫愁水：ああ、お嬢さん、そのうち妻が参りますの  
で、相手をしてやってください。お手数おかけし  
ますが。

張夫人：ご安心ください。

(張夫人は莫愁水氏に付き添って食堂から退場。

張路影：彼、奥さんがいるのね、もう奥さんがいる  
んだわ。

(路影は座って「借家譲ります」の札を書く。王婆  
や登場。

王婆や：女の方がご主人を尋ねて来られました。ご  
主人はここで部屋を見ているはずだとおっしゃっ  
てます。

張路影：お通しして。

(王婆や下がる。路影がまた鏡に向かって髪を整え、  
服を整えていると、王婆やと莫愁水夫人が登場。

莫太太穿着皮大衣，服装入时。

张路影：莫太太。

莫太太：啊，我的丈夫呢？

张路影：在楼上，同我妈在一起，回头就下来，您请坐。

莫太太：是不是你们的房子出顶？

张路影：是的。

莫太太：(四面看看)房子倒是不坏，不过不瞒您说，我们想搬家的原因，还是为我们有一个小孩。

张路影：有一个小孩？

莫太太：有一个小孩，有了这个小孩，做母亲的第一要邻居高尚；我们住的地方，四面都是打麻将声音，我想于小孩子一定不好，所以要搬出来。

张路影：那真是难得的母亲。

莫太太：做母亲都是一样，您小姐大概还没有出嫁，不知道做母亲的心。其实天下母亲总是一条心，当初孟夫子的母亲三番四复地顶房子搬家，为的是什么？还不是为孟夫子将来做圣人，我们虽不想儿子做圣人，也终要是个好孩子。所以最好离学校近一点。

张路影：那么，太太，你顶这个房子再好没有了，这里是：(她念招租条子)“前后邻居都高尚，中学小学在两旁，还有小菜场只隔九条弄堂。”

莫太太：小菜场只隔九条弄堂，那好极了。小菜场一远，买来小菜一定不会

莫夫人は毛皮のコートを着ており、流行の服装をしている。

張路影：いらっしゃいませ。

莫夫人：ああ、主人はどこかしら？

張路影：上の階に、母といらっしゃってます。そのうち下りて来られますから、お座りください。

莫夫人：お宅をお譲りになるんですの？

張路影：そうです。

莫夫人：(周囲を見回して)部屋はなかなか素敵ですね、でも、本当のことを申せば、引越したいのは、子供がいるからですの。

張路影：お子様がいらっしゃる？

莫夫人：一人おります。その子がいると、母親としてはまずご近所がハイクラスであってほしいんです。私たちが住んでいる所は、周りが麻雀をする音ばかりで、きっと子供にはよくないと思いますの。だから、引越したいんです。

張路影：本当に奇特なお母様ですこと。

莫夫人：母親はみんなそうですわ。お嬢さんはきっとまだお嫁に行っておられないでしょうから、母親の気持ちがおわかりにならないんですわ。実際、世の母親はみな心は同じです。昔、孟子の母親が三回も四回も家を買って引っ越したのは、何の為でしょう？やっぱり孟子に将来、聖人になってもらうためでしょう。私は子供を聖人にしようとは思いませんが、それでもやっぱりいい子にはなしてほしいから、学校に近い方がいいんです。

張路影：奥様、それじゃあ、この家を借りられるのが何よりです。ここは、「借家譲ります」の札を読む「隣近所は皆なハイクラス、中学校・小学校が両隣、市場も路地を九筋隔てたところ」です。

莫夫人：市場も、路地九筋しか離れていないなんて、すばらしいわ。市場が遠いと、食材を買って帰っ

新鲜。但是最要紧还是老虎灶，自己烧水，早上总是来不及，而且还费煤。

张路影：这里是：“出门左首八步就是老虎灶。”

莫太太：那真是理想的地方。啊，怎么我丈夫还不下来？

张路影：他就会下来。啊，莫太太，你这件皮大衣实在漂亮，一定很贵的。

莫太太：我以前做的时候，大概九百块钱，现在恐怕要四千多块钱了。近来东西实在贵得厉害！

张路影：可不是，不过做了女人，皮大衣这东西实在省不来，又暖和，又锋头。女人身上许多东西总是漂亮了不实用，实用了不漂亮，比方说胭脂香水吧，漂亮是漂亮极了，但是不实用……

莫太太：这为什么不实用？男人就喜欢这些东西呀！

〔莫愁水偕张太太上。〕

莫愁水：啊，你已经来啦。

莫太太：怎么，你在哪儿啊？这许多工夫……

莫愁水：全是您不好，这么晚来，害我输了钱。

莫太太：输了钱，输了多少？

莫愁水：全输光了。

莫太太：怎么，三块钱全输光了？

莫愁水：可不是，预备顶房子的钱全输光了。这怎么办？回头我父亲知道了

てもかならず鮮度が落ちるから。でも、一番大事なのは湯沸かし屋だわ。湯沸かし屋がなければ、自分でお湯を沸かしていると、朝は絶対に合わないし、石炭代もかさむわ。

張路影：ここは「玄関から左に八歩行けば湯沸かし屋」です。

莫夫人：それじゃあ、本当に理想的な場所ね。ああ、主人はどうしてまだ下りて来ないのかしら？

張路影：もう下りて来られますわ。奥様、あなたの毛皮のコートは本当に素敵ですね、きっとお高いでしょう。

莫夫人：私が作った時には九百くらいでしたけれど、今ならたぶん四千元以上するでしょうね。最近、物価がひどく上がったもの。

張路影：そうですとも、でも、女には毛皮のコートってものは欠かせませんわ。暖かいし、目を引くわ。女の身につける物の多くは、きれいなら役に立たないし、役に立つならきれいじゃないのに。たとえば、紅おしろいや香水はきれいなことはきれいだけれど、役に立たない……

莫夫人：なぜ役に立たないの？男の人はそういったものが好きじゃない？

〔莫愁水が張夫人と登場〕

莫愁水：ああ、もう来てたのか？

莫夫人：どうしたの、どこにいたの？こんなに長い間……

莫愁水：みんなお前の所為だ。来るのが遅いから、賭けですっちゃったよ。

莫夫人：すったですって、幾らすったの？

莫愁水：全部すった。

莫夫人：何ですって、三千元全部すったの？

莫愁水：そうだと。家を譲り受けるのに準備していた金を全部すった。どうしたらいいんだ。後で

怎么办？啊，张太太你一定要借我钱，  
让我去反本。

张太太：借你钱？我同你陌陌生怎么  
借钱？

莫愁水：但是你不借不行。

张太太：不借不行？

莫愁水：不借，我要报告巡捕房，说你  
们串通了骗我钱。

张太太：但是我没有钱啊。

莫愁水：没有钱，那么把你赢的一千块  
钱借给我。

张路影：妈，你赢了一千块钱？！那么  
我可以买皮大衣了？

张太太：借给你，借给你，那么拿什么  
东西押呢？

莫愁水：押？

张路影：妈，就叫他用这件皮大衣押吧。

莫太太：怎么？

莫愁水：Darling，就押给她，我们去  
反本去，回头就可以赎回来的。（他  
拿皮大衣给张太太）

张太太：可是只押一天，你今天不赎，  
明天就是我们的了。（她把钱给莫愁  
水）

〔莫愁水拉着太太下。路影抢过大衣  
穿上。〕

张路影：妈，合式极了，你看我漂亮不  
漂亮？

张太太：啊！漂亮极了，那才真是我的

父に知られたらどうしよう。ああ、張夫人、絶対  
にお金を貸してもらって元手を取り戻させてもら  
わないと。

張夫人：お金を貸すですって？あなたとはお知り合  
いでもないのにどうしてお金をお貸しするんです  
の？

莫愁水：でも貸してもらわないといけません。

張夫人：お貸ししないといけない？

莫愁水：貸していただかないと、警察に、あなた方  
がぐるになって私から金を騙し取ったと訴えます  
よ。

張夫人：でも私、お金がありませんわ。

莫愁水：ないなら、あなたが勝った一千元を貸して  
ください。

張路影：お母さん、一千元勝ったの？じゃあ、私、  
毛皮のコート買ってもいいわね？

張夫人：お貸ししますとも。それじゃあ、何を担保  
にしますか。

莫愁水：担保だって？

張路影：お母さん、その毛皮のコートを担保にして  
もらったら。

莫夫人：何ですって？

莫愁水：Darling、おとなしく担保に渡して、元手  
を取り戻しに行こう。すぐに請け出せるさ。（コ  
ートを張夫人に渡す）

張夫人：でも一日だけです。今日請け出さなかつ  
たら、明日は私たちの物ですよ。（金を莫愁水に  
渡す）

〔莫愁水、夫人を引っ張って退場。路影はコート  
を奪い取るようにして着る。〕

張路影：お母さん、すごくぴったりよ。私きれい  
かしら？

張夫人：ああ、とってもきれいだわ。それでこそ、

女儿，现在终于可以好好儿找个丈夫了。  
张路影：明天我就穿出去，让别人看看，  
（她走了几步）真是，这件衣服真是同  
我自己的一样。

〔王妈上。〕

王 妈：太太，有人来看房子。

张太太：请他进来。

张路影：是男人，女人？

王 妈：自然是男人。

张太太：有汽车么？

王 妈：很大的一部。

〔王妈下，路影要脱大衣，又不想脱，  
焦急似地乱走。〕

张太太：你急什么，好好儿坐着，大衣  
放在旁边好了。

〔张太太拉女儿到沙发上。林湖平上。〕

林湖平：啊，张太太、张小姐是么？

张太太：不敢，不敢，先生贵姓？

林湖平：我姓林。你们的房子出项是不  
是？

张路影：请坐，请坐。

林湖平：顶两万块钱是不是？

张太太：不，这是广告上的价钱，现在  
我们要顶两万五！

林湖平：两万五，两万五，那么你们有  
些什么东西呢？

张路影：这是账单，您先生自己看吧。

（她把账单给林）

林湖平：（林接账单念）“柚木家具两堂，  
沙发十八只，大菜台一张，高背椅八  
只，小铁床三张，红木麻雀桌一张，  
麻雀椅四把，写字台一张，写字椅一

私の娘よ。これでちゃんと夫が見つけられるわね。

張路影：明日これを着て出かけて、他人に見せびら  
かすわ。（数歩歩いて）本当に、これ私の物みたい。

〔王婆や登場。〕

王婆や：奥様、部屋を見に人が来られました。

張夫人：お通しして。

張路影：男？女？

王婆や：もちろん男です。

張夫人：車はある？

王婆や：大きなのが。

〔王婆やは下がり、路影はコートを脱ごうとするが、  
脱ぎたくなくて、焦ったように歩き回る。〕

張夫人：何を焦っているの、ちゃんと座って、コー  
トは横に置いとけばいいわ。

〔張夫人は娘をソファに引っ張って座らせる。林  
湖平登場。〕

林湖平：張夫人とお嬢様ですね。

張夫人：恐れ入ります。お名前は？

林湖平：林と申します。お宅を譲渡されるんでしょ  
う？

張路影：お座りください。

林湖平：二万元で譲渡するんですね。

張夫人：いいえ、それは広告に載った値段で、今は  
二万五千元です。

林湖平：二万五千か、二万五千、それでどんな物が  
附いてるんですか？

張路影：これが明細です。ご自分で御覧ください。（明  
細を林に渡す）

林湖平：（明細を受け取って読む）「チーク材の家具  
二セット、ソファ十八、ダイニングテーブル一、  
背もたれ付き椅子八、鉄のベッド三、食器棚一、  
マホガニーの麻雀卓一、麻雀椅子四、書き物机一、



把，……唔……唔，唔，丝绒帐帷，西洋窗帘，纱窗，瓷灶……”不错，东西倒是不少，不过两万五总好像贵一点。

张太太：还有些东西没有写在账里，比方说电话，这里电话是三三三三三三，就凭这个号码，不要值三千五千的挖费？还有浴缸，我们两只，一只是自己装的。

林湖平：啊，说起浴缸，这浴缸到底有多大？

张太太：浴缸总是浴缸的样子啦。

林湖平：是双人浴缸还是单人浴缸？

张太太：双人浴缸？

林湖平：双人浴缸可以同时两个人洗澡的。

张太太：要是这样说，我们的浴缸可是三人浴缸呢。

林湖平：三人浴缸？

张太太：不骗你，要是我女儿这样，可不是有三个人可以洗。

林湖平：那好极了。不瞒你说，我虽然只一个人，但是要结婚，所以要双人浴缸。

张太太：但是洗澡平常总是分开洗的。

林湖平：那还娶什么太太？要是分开洗澡的话，难道说娶了太太，也只用一张单人床，老爷白天睡，太太晚上睡么？

张路影：你要娶太太？

林湖平：哪一个男人可以不娶太太？啊，张太太你们房子的顶费是两万五，两万五是一个很大的数目，要不是非

附属の椅子一、……ん……ん、ピロードの垂れ幕、西洋風カーテン、網戸、タイル貼り竈、……」いいですね、品物がかなりある。でも二万五千はやっぱりちょっと高い。

張夫人：明細に書いていないものもあります。たとえば電話、ここの電話は333333です。この番号だけでも、四、五千のプレミアは附くんじゃありません。それに浴槽、二つあって、一つは自分で備えつけたものです。

林湖平：ああ、浴槽といえば、その浴槽はどのくらい大きいんですか？

張夫人：浴槽は浴槽ですわ。

林湖平：二人用ですか、一人用ですか。

張夫人：二人用？

林湖平：二人用の浴槽は同時に二人入れるもの<sup>はい</sup>です。

張夫人：そういうことなら、家の浴槽<sup>うち</sup>は三人は入れ<sup>はい</sup>ますわ。

林湖平：三人入れる<sup>はい</sup>？

張夫人：嘘は申しません。家の娘<sup>うち</sup>くらいなら、三人は入れ<sup>はい</sup>ます。

林湖平：なら、すばらしい。実は、私は独身ですが、結婚しようと思うので、二人用の浴槽がいるんです。

張夫人：でもお風呂は普通別々<sup>はい</sup>に入るのでしょ。

林湖平：それだったら、妻を娶ってもしょうがないでしょう。もし別々に風呂<sup>はい</sup>に入るんなら、妻を娶って、シングルベッド一台で、夫が昼寝て、妻が夜寝るとでもいうんですか。

張路影：ご結婚なさいますの？

林湖平：男が妻を娶らないなんてことができますか？  
ああ、張奥さん、お宅の賃貸権譲渡料は二万五千ですね。二万五千は大きな額です。非常時でなけ

常时期，不是可以买一所很好的房子了？到底你们还带着一点什么东西？

张太太：带点什么东西？

林湖平：譬如说，连你的小姐顶在一起。

张太太：你这是什么话？

张路影：看你倒是有知识的人，怎么这样没有人格，简直是侮辱女性！

林湖平：对不起，小姐。张太太，不过我的情形实在有一点不同。我的家里很有钱，大哥娶了太太，自己租房子去住；二哥娶了太太，自己租房子去住；我的大弟弟娶了太太，自己租房子去住；我的小弟弟娶了太太，也自己租房子去住。他们每月花父亲很多的钱，只有我住在父亲一起，花钱少，又不自由，我很想自己来住，但是父亲说，一定有了太太才可以分出去住。但是娶太太实在有点麻烦，娶了太太找不到房子，我对不起太太，找到房子要是没有太太，又不行，所以我想来想去，最好找一所房子，宁使顶费大一点，里面要有一位漂亮的小姐也一同出顶才好。

张太太：话是不错，不过好人家的小姐哪里肯……

林湖平：张太太，不瞒你说，我倒以为有知识有思想的女子一定愿意这样。老实说，我不愿意结婚的缘故，实在还因为一定要同我结婚才嫁我的女人，总是没有思想的。她们都是为我家里的钱。你想，结婚本来是快活的

れば、とてもいい家<sup>うち</sup>が買えますよ。いったいどんな物をつけるというんですか？

張夫人：何かつけるですって？

林湖平：たとえば、お嬢さんも一緒に譲るとか？

張夫人：なんてこと言うの？

張路影：教養のある方の方ですのに、どうしてそんなに品性のないことをおっしゃるの？まったく女性に対する侮辱ですわ。

林湖平：申し訳ございません、お嬢さん。奥さん、でも私の事情は本当にちょっと変わっているんです。私の家はかなり金が有って、長兄が結婚すると、自分で家を借りて別居し、下の兄が結婚すると、自分で家を借りて別居し、上の弟が結婚すると、自分で家を借りて別居し、下の弟も結婚すると、自分で家を借りて別居しました。彼らは毎月父の金をたくさん使っていますが、私だけが父と一緒に住んで、使う金も少なく、好き勝手にできません。私は別居したいのですが、父親は、絶対妻がいなければ別居してはいけないと言うのです。でも、妻を貰うのは実際ちょっと面倒ですし、妻を貰っても部屋が見つからなければ妻に申し訳ないし、部屋を見つけても、妻がいなければだめだし、考えに考えて、少しくらい高くても、中にいるきれいなお嬢さんも一緒に譲ってくれればいいと思ったんですよ。

張夫人：おっしゃることはごもつともですが、いい家<sup>うち</sup>のお嬢さんがそんなことを……

林湖平：奥さん、実を申しますと、私は、教養があって自分の考えを持つ女性はきっとそれを望むと思うのです。本当のところ、私が結婚したくないわけは、どうしても私と結婚したいがために嫁に来るような女は大抵自分の考えがないからです。そういう女たちは私の家が金持ちだから結婚する

事情，但是她们要我们先陪许许多多亲戚朋友快活，不让你自己快活。  
……

张路影：那么你要顶房子一定要顶一个太太了。

林湖平：所以说，假如……

张路影：同太太住在这里？

林湖平：自然。

张太太：假如有丈母娘呢？

林湖平：自然也住在一起了，丈母娘本来是世界上最可爱的人物。要是您小姐愿意的话，……

张路影：妈，怎么样？

张太太：你觉得怎么样？（对林）好是很好，不过……

林湖平：不过什么？张太太，你不要太相信世界上的什么，他们都是骗人的，什么喜事一定要怎么办，丧事一定要怎么办，这些都是人造的。你想以前没有顶房子的事情，现在作顶，大家在顶。房子都可以出顶，为什么小姐不可以出顶？这就是一个风气，谁漂亮，谁聪敏，谁就先干，要是你小姐今天出顶，明天报纸上都要登起来，什么“亭子间一间，铁床一架，连摩登小姐一个，廉价出顶。”或者说“洋房一幢，连太太一个，只顶一万块钱……”

张太太：好，我就顶给你，但是你要先付定钱。

んです。結婚は本来楽しいことのはずでしょう。なのに、みんな先ずたくさんの親戚や友達に付き合って楽しまなければいけなくて、自分たちは楽しめないんですよ。

張路影：じゃあ、あなたは家を譲り受けるなら、必ず奥さんも附いてなくてはいけないですね。

林湖平：だから、もし、……

張路影：奥さんとここに住むの？

林湖平：もちろん。

張夫人：もし姑がいたら？

林湖平：もちろんやっぱり一緒に住みますよ、姑は本来世界で一番愛すべき人物ですからね。もしお嬢さんがお望みなら、……

張路影：お母さん、どう思う？

張夫人：お前はどう思うの？（林に）いいことはいけれど、でも、……

林湖平：でも何ですか？奥さん、この世の中のあれこれをあんまり信じちゃいけません。みんな騙りです。結婚式は必ずあしなけりゃならんだとか、葬式は必ずこうしなけりゃならんだとか、そういったことはみな人が作りだしたものです。昔は借家を譲るなんてことはなかったでしょう。今こそみんな譲るようになったけど。借家でも譲れるんだから、どうしてお嬢さんを譲渡してはいけないなんてことがあるでしょう。それは一種の風潮です。できる人、目敏めざとい人から、先にやります。もしお嬢さんを今日譲渡したら、明日には新聞に載るでしょう。「中二階の小部屋一間、鉄のベッド一台、モダンな娘も一人つけて、安値で譲渡」だとか、「洋間一間、奥さんも一人つけて、譲渡料たったの一万元」だとか。

張夫人：いいわ、お譲りしましょう。でも先に手付金を払ってください。

林湖平：那自然了。

张路影：不过，话虽那么说，但是近代  
的婚姻，都要经过恋爱的阶段呀！

林湖平：恋爱的阶段，对的。这个容易  
办。现在就让我们出去好了。（他拿  
皮大衣替路影穿）

张路影：怎么？

林湖平：你难道不知道恋爱是什么吗？  
恋爱就是我拿大衣给你穿，带你出  
去，两个人喝喝茶，吃吃饭，跳跳舞，  
公园里溜溜，看看电影，你把我当作  
男主角，我把你当做女主角，你叫我  
Darling。我叫你Sweetheart，此外  
难道还有别的花样么？

张路影：（想了一想）也许没有别的花样  
了。

林湖平：那么为什么不走呢？

（林湖平为路影穿大衣的时候，莫愁  
水与莫太太上。）

莫愁水：啊，赢回来了，赢回来了。张  
太太，现在我们可以谈顶房子的事  
情了。

莫太太：怎么，你穿我大衣要出去么？  
愁水快先给她们一千块钱，赎回大衣。  
（莫愁水付张太太一千块钱，莫太太  
剥路影身上大衣。）

张太太：（受钱）但是房子已经顶给这位  
先生了。

林湖平：怎么，这大衣不是你女儿的？

张太太：不错，是那位太太的。

林湖平：呵，这大衣至少要值五千块，  
那么我的顶费可只有两万元了。

林湖平：それはもちろん。

張路影：でも、そうは言っても、近代の婚姻は必ず  
恋愛の段階を経なくては。

林湖平：恋愛の段階、そうだね。それは簡単だ。今  
から二人で出かければいい。（毛皮のコートをと  
って路影に着せようとする）

張路影：どうして？

林湖平：君は恋愛がどういうものなのか知らないの  
かい？恋愛というのは、コートをとって君に着せ、  
君をつれて出かけ、二人でお茶を飲んで、食事を  
し、ダンスをし、公園を散歩し、映画を見て、お  
互いに相手を物語の主人公だと思って、君が僕を  
Darlingと呼び、僕が君をSweetheartと呼ぶものさ。  
その他に別のやり方があるとでも？

張路影：（ちょっと考えて）もしかしたら別のやり  
方はないかもしれないわ。

林湖平：じゃあ、行こうよ。

〔林湖平が路影に着せていると、莫愁水が夫人と  
登場。〕

莫愁水：勝って取り戻したぞ。奥さん、やっと家を  
譲り受ける話ができますよ。

莫夫人：どうということ、私のコートを着て出かける  
の？愁水、まず一千元渡してコートを請け出して。  
〔莫愁水は張夫人に一千元払い、莫夫人は路影か  
らコートを引きはがす。〕

張夫人：（金を受け取り）でも家はもうこの方にお  
譲りしてしまいましたわ。

林湖平：何だって？このコートは娘さんのじゃない  
んですか？

張夫人：その通り、あの奥さんのですわ。

林湖平：ちえっ、このコートは少なくとも五千元は  
する。それじゃあ、私が払う譲渡料は二万だけだ。

张路影：怎么？

林湖平：两万五千顶费，减去五千，不是两万块么？

张太太：什么？那我可要收回，顶给这位先生了。

张路影：妈，可是他不是已经有太太了么？

莫太太：什么，有了太太就不顶么？

张路影：莫太太，租房子，有小孩子不租是普通的事情，自然顶房子也可以有太太不顶了。

莫太太：不顶拉倒，愁水，我们走。

莫愁水：走，走！运气不坏，还赢点钱，咱们去玩它一个通宵吧。

莫太太：好，好。

（莫氏夫妇下。

林湖平：那么，张太太，你两万元顶不顶？

张太太：顶，既然是自己人，还争这点儿钱么？但是请你先付点定钱。

林湖平：好，我先付你一张四千块钱，（他开支票）其余的钱明天交给你，还是交给你女儿？

张太太：自然交给我。

张路影：交给你？

张太太：什么？难道交给你？

张路影：自然要交给我。

林湖平：Sweetheart，不要争，我自然要交给我的Sweetheart，我们第一要买一件皮大衣。

張路影：どうして？

林湖平：二万五千元から五千元引いたら、二万円じゃないですか？

張夫人：何ですって？それなら取り戻して、この方に譲渡します。

張路影：お母さん、でもこの方はもう奥さんがいらっしゃるじゃない？

莫夫人：何ですって？妻がいたら譲渡しないの？

張路影：莫奥様、部屋を貸すとき子どもがいれば貸さないというのは普通の事です。当然、家をお譲りするときだって、奥さんがいれば譲らないってこともありえますわ。

莫夫人：譲って頂けないのなら結構。愁水、行きましょう。

莫愁水：行こう。つきがあって、ちょっと勝ったし、徹夜で遊びに行こうよ。

莫夫人：いいわよ。

〔莫氏夫妻退場。〕

林湖平：それじゃあ、張奥さん、二万元でお譲りになりますか？

張夫人：お譲りします。もう身内なのだから、それくらいのお金は気にしません。でも、先に手付金を払ってください。

林湖平：わかりました。まず四千元払いましょう。（小切手を切る）残りは明日お払います。それともお嬢さんに渡しましょうか。

張夫人：もちろん私に渡してください。

張路影：お母さんに？

張夫人：何？お前に渡せとでもいうの？

張路影：もちろん私に渡すのよ。

林湖平：Sweetheart、喧嘩しないで、もちろん僕のSweetheartに渡すさ。先ず最初に毛皮のコートを買わなくちゃ。

张路影：不错。(她走去接支票)妈，那三千块钱就先给我买皮大衣好了。

张太太：什么？

张路影：不然我怎么可以出去交际？

张太太：那么你不会叫你丈夫去买么？  
(她过来抢钱)

林湖平：(拦住张太太)一家人，争什么，三千块钱，藏在谁那里都是一样。

张路影：不是，我是怕她去赌去呀。

林湖平：赌去，那不好，那不好。那还是交给我，同那两万块钱替你存在一块儿。(他拿钱)那末我们先出去一会儿，过过这个恋爱的阶段。丈母娘，晚上请你替我们布置一个房间。  
(林湖平拉着路影下。)

张路影：妈，回头见！

张太太：(突然号哭)啊哟，你这没有良心畜生，我十个月怀胎，抱你背你，养了你那么大，你轧上姘头就丢了娘，啊哟，小畜生呀小畜生！……

——幕徐下——

張路影：その通りね。(小切手を受け取ろうとして)  
お母さん、それじゃあ三千元はまず私の毛皮のコートを買わせてもらおうわ。

張夫人：何ですって？

張路影：でなきゃどうやって出かけられるの？

張夫人：それじゃあ、夫に買わせないのかい？(金を奪おうとする)

林湖平：(張夫人をとどめて) 家族同士で争ってどうするんです。三千元、誰が持っても同じでしょう。

張路影：いいえ、私はお母さんが賭け事をしに行くのが心配なの。

林湖平：賭け事をしに、それはだめだ。それならやっぱり僕に渡して。あの二万元と一緒に保管しておいてあげるよ。(金を取る) それじゃ、ちょっと出かけて、恋愛の段階をやってきます。お義母さん、夜は僕たちの為に部屋を設えて下さい。

〔林湖平、路影を引っ張って退場。〕

張路影：お母さん、また後でね。

張夫人：(突然泣き叫んで) ああ、この薄情な人でなしめ、自分のお腹を痛めて生んで、抱いたりおぶったりして、あそこまで育てたのに、男ができたら母親を棄てるなんて、ああ、この人でなし、……

——幕がゆっくり下りる——